

平成28年度第1回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録	
日 時	平成28年9月8日(木) 13時30分～15時00分
開催場所	松村ビル別館 603会議室
出席者	明石要一部会長、橋本ミチ子副部会長、大野功委員、住田昌治委員、丸山智美委員、 梁田理恵子委員、工藤春治委員、世古正樹委員、永井萬里子委員、森佳代子委員
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者3人)
議 題	<議事> 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について
決定事項等	横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について、事務局案を放課後部会として了承した。

<議題>

横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

(事務局) 資料5～資料10に基づき説明。

(明石部会長) 利用者アンケート結果と、それに基づいた点検・評価案の説明でした。各委員の方々からまず、質問や意見等ありましたらお願いいたします。

(大野委員) アンケートの項目をシンプルなものにしたことで、多くの回答が得られたのではないのでしょうか。欲を言えば、利用者の回答率が50%を超えてくれればさらによかったと考えますが、来年度以降の取組に期待したいと思います。保護者アンケートで、キッズ、放課後児童クラブともに、満足度では「楽しんでいる」と回答した方が9割を超えている数値となっていることは非常にうれしいことで、放課後の居場所を確保するという「量の事業」であるだけに、見えにくい質の部分で高い評価を受けたということは、大変喜ばしいことではないかと感じています。

一点お伺いしますが、キッズは計画以上に転換を進めているにも関わらず、計画どおりに進んでいるとするB評価にしたことについて、もう一度詳しくお伺いしたいと思います。有効性についても、市民生活等を向上させることができ、利用者、実施事業者からの評価も高いということで、Aにふさわしいのではと思うのですが、Bとした理由について、さらに詳しくご説明いただきたいと思います。

(事務局) 確かにキッズクラブについては予定よりは多く進んでいます。それは、キッズに早くしてほしいという学校があったことや、地元調整が円滑に進んだという理由があり、進捗は順調です。一方で、放課後児童クラブは、なかなか分割・移転が難しく、アンケートにもあったとおり決め手に欠く部分があるため、Aをつけるところまでは至りませんでした。引き続き努力していきたいと思っています。有効性についても、いろいろとご意見を伺う中で、質の部分については今後の課題として考えさせられるものもありましたので、Bといたしました。

(大野委員) これからのさらなる施策の推進を期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(森委員) キッズクラブの事業者アンケートの自由意見で、「キッズになってから学校や先生との距離が広がりました」というのが、親や子どもからすると連携がなくなるというのはマイナスだと思うのですが、理由を教えてくださいませんか。

(事務局) キッズクラブになると運営が法人に変わります。「はまっ子ふれあいスクール」は運営委員会という形で、学校やPTAの方を中心とした組織だったものが、法人が入ることによって、少し距離感を感じる

学校もあるのかなと思っています。実際には場所をお借りしている立場でもあり、評議会を開いて、そこで地域や学校のご意見を伺うようにしていますので、そういった機会を契機として連携を図っていただきたいと思います。

(森委員) 連携がとても大事になってくると思うのです。放課後の居場所づくりという意味では、一日を通してきちんと親も状況を知っている必要があると思いますので、大切にしていっていただければと思います。

(事務局) キッズになると所管が区役所に移り、より近いところで支援ができるようになりましたので、仮にちょっと距離感があってキッズ側でお悩みがある、あるいは学校側のほうでちょっと近寄りがたいところがあるとすれば、ぜひこちらのほうも積極的に関わり、とりもっていきたいと思っています。

(住田委員) このアンケート結果を見ていると、本当に利用者の満足度が高く、はまっ子に比べると利用者数がかかなり増えているという結果が出ています。非常に有効性が高いのだなということがここからもわかると思います。これからキッズに転換するところは、こういう結果を見ると今よりもかなりいろいろなことが改善されていくとか、利用者が少なく困っているところは、これからきっと利用者が増えていくだろうということが希望的な観測として持てるので、非常に有効なデータとして出ているなと感じました。

自由意見のところ、障害専門のスタッフという表現があるのですが、今、学校現場は、配慮を要するお子さんが非常に増えてきて、個別支援学級のみならず、一般級にもかなりそういうことを見受けられます。キッズにもかなりのお子さんがそういう形で入ってくる時に、専門的な知識やノウハウがないとなかなか難しいと思うのです。学校との連携はすごく大事な部分ですし、特別支援に関わるような予算配分もあったと思います。そのような要望はクラブから上がってきているのでしょうか。

(事務局) クラブの職員は専門家ではないので、研修の機会の提供や相談員の先生方に巡回をしていただいています。特定のお子さんや環境に対して継続的に関わってもらえるような制度や現場支援をしていただけないかという声はありました。また、学校のほうでいろいろ支援をしてくださっている方にアドバイスを求めるケースも現場ではあるように聞いています。ただ、学校の対応とここでの対応、また最近では放課後等デイサービスという障害児の療育等も兼ねた放課後の居場所ができて、併用される方も増えています。連携を図ったり、一定の知識はスタッフに与えるような研修をしていくことと、場合によっては専門体制も何かしらの支援を考えなければいけないのではないかと思います。補助金は職員を加配するときの人員費としており、必ずしも特定の知識や能力を持った方というわけではないので、専門性を求める声が多いということとは理解しています。

(明石部会長) 今の件は、今回は議論できませんが、ゆくゆくは非常に大事なテーマになってきますので、委員の方々は頭に置いていただければと思います。

(永井委員) キッズクラブの利用者アンケートを見てわかるように、3年生以上になると評価が下がってきます。実際、キッズの現場を回っていると、やはり3年生以上の高学年の参加が大変少なくなります。一方で、高学年が多いキッズクラブもあるのです。高学年の参加が多いところと少ないところの差は何があるのかという情報があるとまた、随分助かるのではないかなと思います。今回の調査は、キッズに転換して1年しかたっていないクラブですけれども、キッズとして長く活動しているところではどういう結果が出てくるのかというのにも興味があると考えました。

それから、「量の拡充とあわせ、障害児対応や高学年向けプログラムの充実など」と書かれていますが、施策として障害児対応に何か具体的な策を講じようという計画はあるのでしょうか。

(事務局) 現段階では、研修等の拡充になります。主任や常勤の方を中心にしたものになっており、アシスタ

ントや非常勤の方にはなかなかできないという課題があります。相談体制も対応数に限りがあり、なかなか継続的な支援ができないため、もう少しきめ細かな体制がつかれるようにとは思っています。

(世古委員) 自分の子どもが入っている放課後児童クラブが、まさに移転を考えているクラブです。こうやって話し合っていることで、自分のクラブにも還元できればと思いました。

この資料を見て思ったのは、キッズも放課後児童クラブもずっと満足度は高いのですが、キッズは学年とともに少しずつ下がっていくのに対し、放課後児童クラブは高学年になればなるほど上がったままなのです。4～6年生の保護者のキッズの満足度は「19時までの預かり」というのが100%なのですが、放課後児童クラブの1位は「職員が良い」ということで、親の立場で預けたいキッズと、子どもの立場を考えている放課後児童クラブというのがあるのだなと感じました。驚いたのが、放課後児童クラブが良いという理由に、どこにも「子ども同士の縦のつながりがある」というのが書いていないのです。放課後児童クラブの良さというのは縦のつながりで、近所の社会にないものがあるというところだと自分ではずっと思っていたので驚きました。

学校職員の立場で言いますと、先ほどお話が出ていました、キッズになって学校との距離感を感じるというのが、私はすごく違和感を感じました。放課後児童クラブでの子ども同士のトラブルは、親は顔を知っているのに、放課後児童クラブの中で解決してしまうのですが、一方キッズは、知らない子同士がトラブルになり、親も顔を知らないで、やはり学校でも対応する必要がでてきます。自分が副校長だったときは、学校の見回り際にはキッズに行き行って話したり、キッズの職員も職員室に寄って話したりして連携をとっていました。距離感があるというふうに職員の方に思われるということは、学校もしっかり考えていかなければいけないと感じました。

(工藤委員) 感想ということでお話しさせていただきます。初年度ということでは、うまくできたのではないかと思います。一方、先ほども出ました利用者アンケートで、回答率が半分以下というのはどういう背景があったのかなと感じました。

今後の方向性という意味では、キッズのほうはまたこれからもどんどん進めていくのかな、進めていっていただけるのかなと感じていますが、放課後児童クラブのほうで、コメントでいろいろな意見が出されています。その中で、いろいろな意見の中にお金の話が出てきています。その辺を今後、行政側として、また我々も含めて、どういう形で進めなければいけないのかというのを、自分の課題にもしたいと思っています。

(丸山委員) 実際に子どもが預けられてくる側だったときに、長期休暇、夏休み中、子どもはとても長い時間キッズやまっ子にしていることになるのですが、家にいるような感覚でといっても、なかなかリラックスできないこともあります。低学年で毎日朝から19時まで来るとなると、とても疲れてしまうのです。高学年には高学年でできるプログラムがあると思うのですが、プログラムを増やせば飽きなくなるかというのと、それはそれで疲れてしまって、低学年の子には負担になってしまったりするので、ぜひアンケートの項目の1つに夏休みについて何か入れていただけると、参考になるのかなと思いました。

(梁田委員) 後ろの自由記述を見ていると、本当に保護者の方の本音が出ていてびっくりしました。やはりキッズは預けるもの、放課後児童クラブは子どもの育ちを考えるもの、というような、何かが見えてくるのかなと思いました。やっぱり職員間の連携と、職員同士の温かさとかつながりというのが一番子どもに影響すると思うのです。主任の方はとても大変だと思いますが、もう少し心を広く大きく持って、子どもに何でも影響するんだということを感じていただけたらと思います。夏休みは本当に朝8時、9時から夜の19時

まで、本当に子どもって大変だと思うのです。でも、それを見る職員もきつと大変で、そこでカリカリしてしまっただけがまた子どもに影響して、それが悪い影響になるので、少しゆったりした気持ちで子どもたちを見ていただけるような体制がとれると、子どもにもいい影響が与えられるのかなと思います。また、保護者の方が家庭でできないことを味あわせてほしいというところがあったので、手づくり感にこだわるのも保護者の方の気持ちがあらわれているなと思いました。

(橋本副部長) このアンケートを見て、子どもたちの放課後の過ごし方についての意識がとても正直に出ているなと思いました。一方で、このアンケートからでは、保護者が子育てについて何を共有し、何を学んでいるのかが充分に見えてこないとも感じました。手厚い保育や放課後対策が、子育ての面倒な部分を誰かに頼んで、保護者が子どもの事を考えなくなるようでは問題だと思います。

確かに放課後児童クラブは、保護者の事務的な負担がありますが、その負担についての伝え方を工夫して、保護者が「自分にとって負担となるか」ではなく、内容を見て、子どものためにどの居場所が最も良いのか、という観点で判断して欲しいと思います。

(明石部長) 私は個人的に見まして、今回の結果が点検・評価の一つの手法としてよく出てきているなと感じました。これまでの自己点検・自己評価というのは、例えば設置率何%達成したとか数量的なもので評価することが多いのですが、それと同時にユーザーである保護者と、事業者の方の意見も聞くというやり方が非常に良いと思いました。こういうスタイルでやっていただけると、これからの点検・評価がもっとリアリティーがある形になると思います。

二点目は、親の立場からすると、はまっ子からキッズに転換したことによって、これだけ19時までの預かりというものが大事にされているのだなというのがわかります。一方、放課後児童クラブの場合は、分割や分室というのは評価が高いのですが、移転は難しいのだなということがわかりました。今回の結果は、正直にデータが出ているので、興味深い手法だと思いました。

三点目は、このデータをレポートにまとめて保護者に返してあげると、キッズを利用している保護者の方も、放課後児童クラブの保護者のデータとあわせて、「ここはこういうふうに頑張っているんだな」ということがわかると思います。ただ預けるだけではなくて、子育てをどうするかというヒントになり得るので、今後取り組んでいただければと思います。

それから、キッズになると学校との連携が取りにくいという話がありましたが、私はもう少し、キッズは学校との連携を密にしなければいけないだろうと思います。放課後児童クラブはある意味独自のことをやっていますから、側面的には学校と交流しますけれども、具体的には自前でできそうな感じがします。キッズの場合は、学校との連携というのをもっともっと検討する価値があるかなと思います。キッズでトラブルがあった際に、学校に相談しないというのは困るのですが、法人が運営してしまうと何となく自己完結になりかねないというか、その辺を教育委員会等ともう少し協力して検討していってくれるといいかなと感じました。

プレイパークも、定期的にやり出したというのはいいことですね。月に1回、第三土曜日に集まるとか、何か決めてくれると子どもたちも行きやすいというヒントが見えました。

それでは、この部会の案として、提案どおりでよろしいでしょうか。次の全体会議で報告させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料5 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について 資料6 横浜市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価案（基本施策①・基本施策②） 資料7 横浜市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価アンケート用紙 資料8 利用者アンケート報告書（放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ） 資料9 事業者アンケート報告書（放課後キッズクラブ） 資料10 事業者アンケート報告書（放課後児童クラブ）
特記事項	本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。